

イデックスオイルレポート ~For a week~

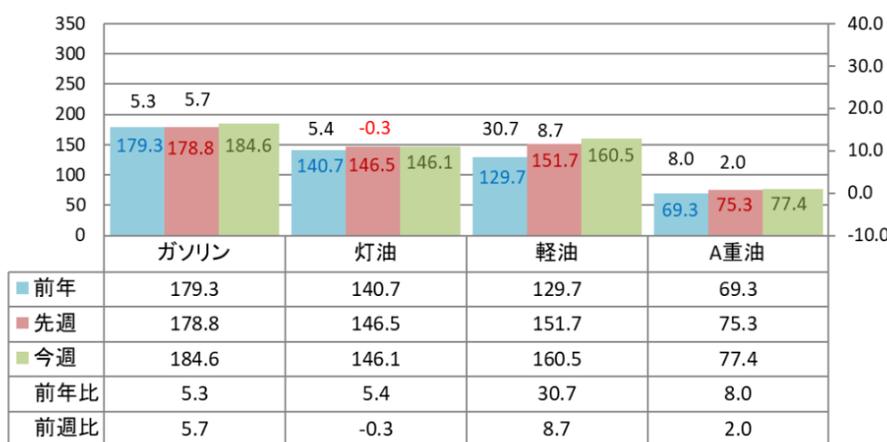
2021/4/23作成 (株)新出光

【概況】<インドなどアジア地域での感染拡大により上値重く>

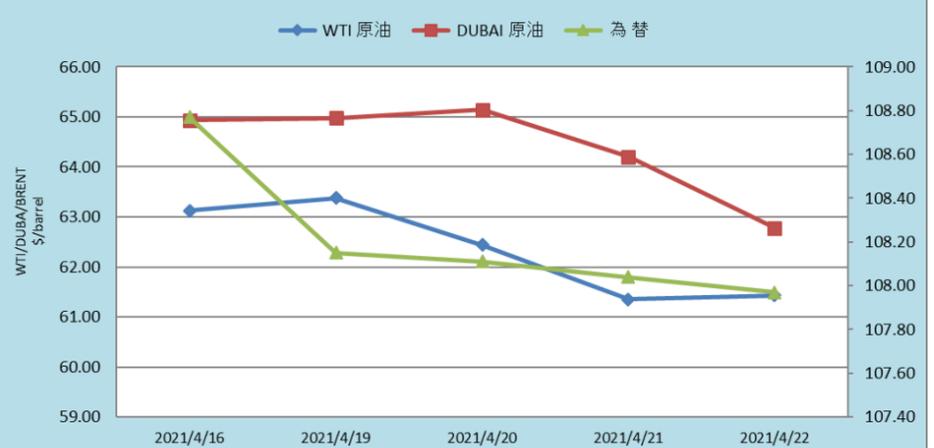
- 16日、米国の個人消費や雇用に関する指標改善に続き、今年1~3月期の中国国内総生産(GDP)が前年同期比18.3%増と、四半期ごとの数値公表が始まった1992年以降で最高の伸びを記録し、世界1、2位の経済大国の景気回復が進み、エネルギー商品需要が増大するとの期待が高まりました。ただ今週は石油輸出国機構(OPEC)と国際エネルギー機関(IEA)がそれぞれの月報で、世界の石油需要見通しが楽観視され利益確定の動きも見られました
- 19日、インドなどで新型コロナウイルスの新規感染者が急増しており、経済活動規制によるエネルギー需要鈍化への懸念が重しとなり、上値を抑えました。米ジョンズ・ホプキンス大の集計によると、世界第3位の石油輸入・消費国であるインドの累計感染者数は1500万人超と3100万人超の米国に次ぐ世界2番目となっています。
- 20日、インドで1日の新型コロナの感染者数は27万人を突破したことから、首都ニューデリーは同日夜から1週間のロックダウンに入り、全土封鎖に発展する可能性も浮上しています。アジア地域では、フィリピンやパキスタンでも感染者数が増えており、米中主導でのエネルギー需要の早期回復期待が後退し、一時の上げ幅を抑える形となりました。
- 21日、インドの感染拡大に加え、EIAが発表した週間在庫統計では、原油在庫が前週比60万バレル増と、市場予想の300万バレル減に反して積み増しとなり、需給の不均衡に警戒感が広がり、原油相場は下げ幅を拡大しました。ガソリン在庫は10万バレル増(同予想50万バレル増)、ディスティレート(留出油)は110万バレル減(同100万バレル減)となったようです。
- 22日、引き続きインドでの感染拡大が経済活動を停滞させるとの思惑から相場の上値を重くしています。ただ、リビアの石油生産が落ち込んでいることが伝わり、相場は下支えされています。

4月23日 17:00現在 WTI原油 61.91ドル 為替 1ドル 107.91円

国内石油製品在庫 4月17日時点 単位万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ 単位 円



次回元売変動予測

4/29~ 元売変動予測

ガソリン	→	±0~+0.5
灯油	→	±0~+0.5
軽油	→	±0~+0.5
A重油	→	±0~+0.5
LSA	→	±0~+0.5

【製品卸価格】<油種により市況の明暗分かれる>

《今週》今週の元売り仕切り改定は「+1.5円」の値上げでした。大幅な値上げ改定となりましたが、ガソリン・灯油については月間リンク玉の販売により、市況の上昇幅が抑えられました。軽油や重油でも枠の消化具合により、各地対応は様々となっています。

《4月24日以降》来週の元売り改定は現状の原油コストで「±0~+0.5円」の小幅変動予測です。5月二週目の改定はGWと改定日が重なりますので、ENEOSと出光シェルの改定は4/29~5/12までの2週間分の提示となりそうです。ただコスモ石油は1週間ごとの4月28日(水)と5月6日(木)での改定となると思われます。市況としては、ENEOSによる市中調達や油槽所での在庫薄により、ガソリンについては、京浜・阪神エリアでの玉の逼迫が起きています。いまだ市況の上昇に繋がるほどの影響は見られませんが、安値を提示している月間リンクの玉がこの週末で消化の目途をつければ、週明けから市況が変わってくるかもしれません。中京エリアでは、ガソリンもまだ在庫に余裕があるようで、上値が重い状況です。軽油は全国的に未課税玉での月間リンク玉の安値が残り、市況は少し下がっているようです。

※現段階の原油コストによる予想です。

【次世代エネルギー】<合成燃料2040年商用化へ>

経済産業省は工場などで排出した二酸化炭素(CO2)を回収し、水素と反応させてつくる「合成燃料」を2040年までに商用化を実現できるように取り組むとしています。実際に海外ではすでに燃料として使用が進んでおり、オランダのKLMオランダ航空では今年1月に合成燃料を従来のジェット燃料に混ぜて旅客機を運行しました。政府としては、技術開発や実証を進め、2030年までに大量生産できる技術を確認し、CO2実質ゼロの燃料として2050年にはガソリン以下の価格に下げて脱炭素化を後押しするとしています。またENEOSは「再エネ合成燃料」は原油に非常に近い成分でできており、既存の製油所設備の転用が可能であるとともに燃料を使用する航空機や自動車も既存のものがそのまま使えるため、燃料の流通経路も確立されているために製造技術が実現すれば早くに普及できると考えており、実現に向けて前向きな取り組みを行っています。今後海外との技術協力も進めば、近い未来に広く使用される燃料として普及していきそうです。